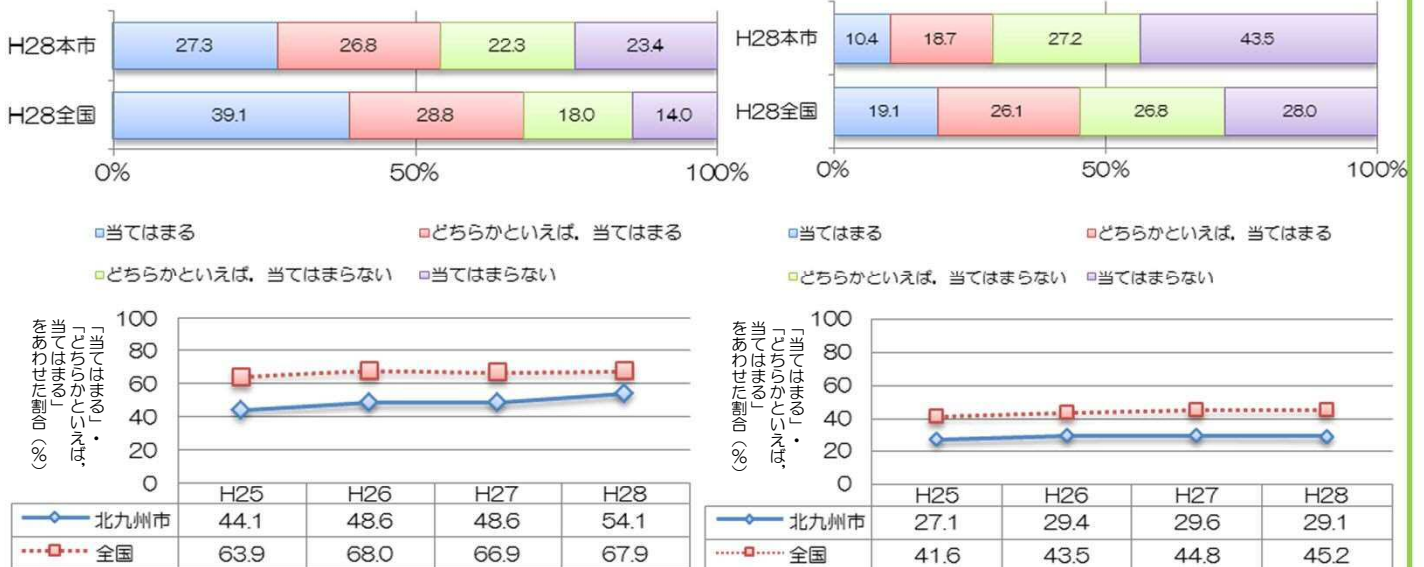


児童生徒質問紙から、「心の育ち」に關係の深いデータを示しています。（無解答，その他を除く。）

質問番号34 【今住んでいる地域の行事に参加していますか】

【小学校】

【中学校】

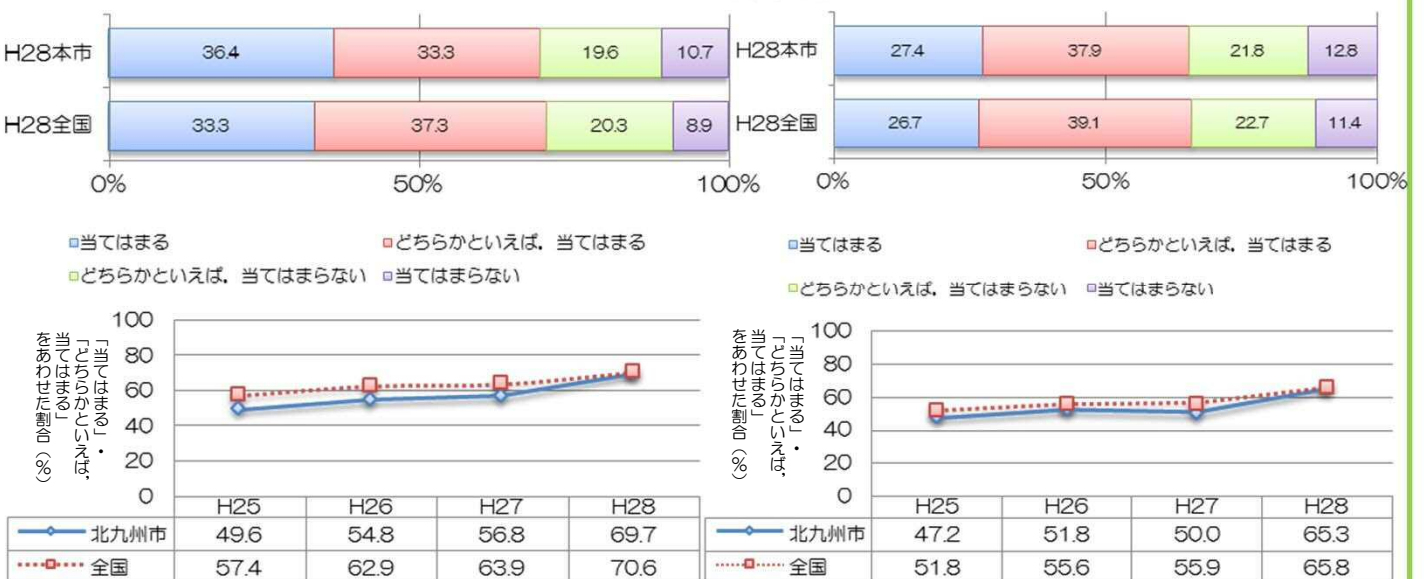


「今住んでいる地域の行事に参加していますか」について、肯定的な回答をした割合は、小6中3とも全国平均を下回るが、小6では昨年度より改善がみられる。

質問番号35 【地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか】

【小学校】

【中学校】



「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」について、肯定的な回答をした割合は、小6中3とも全国平均と同程度となり、改善傾向にある。

（８）成果を上げた各学校の取組事例（同一集団による経年変化）

【平成28年度全国学調小6と平成26年度本市独自の学力調査小4との差】
 〈小学校〉 ※当該学年が10人以下の学校は除く

No.	学校名	28全国学調-26本市独自の学力調査	特記事項
1	A小学校	43.2	<ul style="list-style-type: none"> 放課後、1・2年生は週に2日ずつチャレンジタイム（15:20～15:50）を実施。3～6年生は、放課後教室およびひまわり学習塾を週2～3日実施した。 生活向上意欲を高める特別活動（学級会や委員会活動）の充実を図った。
2	B小学校	31.1	<ul style="list-style-type: none"> 国語の授業では、教務主任がT2としてサポートし、B問題に対応できる学習スタイルにした。 給食準備時間、昼休みには「寺小屋タイム」を設定し、担任外が補充学習を行った。 朝自習と宿題を同一問題を用いて、繰り返し学習した。
3	C小学校	25.5	<ul style="list-style-type: none"> ひまわり学習塾を学力向上策の一つとして教員が積極的にかかわり、基礎的・基本的な知識の習得に取り組んだ。 家庭学習マイスター賞に向けて、全校で取り組み、学習習慣の定着を図った。 北九州子どもつながりプログラムを全校で実施した。
4	D小学校	25.5	<ul style="list-style-type: none"> 全校で、ユニバーサルデザインを意識した授業改善、校内研修、環境整備などに努めた。 放課後の特設時間では、100マス計算でA問題対応、ワークシート通信（読売新聞HP）でB問題対応の学習を実施した。 各教科でモデルノートの作成を企画している。
5	E小学校	23.5	<ul style="list-style-type: none"> 朝自習で、漢字フラッシュカードや活用する力を高めるワーク、アシストシート等を徹底して取り組んだ。 全校で算数の授業において、習熟度別学習を実施し、個に応じた学習に取り組んだ。 表現力を高めるために、読書タイムで読書日記に取り組んだ。

※ 全国平均正答率との差を年度ごとに計算し、その値を28年度全国学調と26年度CRTと比較した数値

【平成28年度全学調中3と平成25年度全学調小6との差】 〈中学校〉

No.	学校名	28年度-25年度	特記事項
1	F中学校	21.3	<ul style="list-style-type: none"> 放課後に、ひまわり学習塾（3年）、F中学校塾（1・2年）を実施し、基礎学力の定着に取り組んだ。 思考力・表現力等を育成するために、定期考査等で記述式の問題を設定した。
2	G中学校	20.1	<ul style="list-style-type: none"> 教育センターの委嘱研究を受けて、授業改善に取り組んだ。特に、ユニット型の校内研修に取り組んだ。 朝自習の時間に強化週間を設定し、確認テストを実施することで基礎学力の定着に取り組んだ。
3	H中学校	13.4	<ul style="list-style-type: none"> 宿題においては、全校で5教科授業の復習として毎日計画的に取り組ませ、基礎学力の定着を図った。 数学の授業においては、B問題に対応するため、活用問題に取り組んだ。 各種の研修に参加した教員は、レポートを作成し、全教員に配布した。
4	I中学校	10.7	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の定着が不十分な生徒に対して、放課後や昼休みを利用して補充学習に取り組んだ。 習熟度別学習（数学・英語）や少人数指導（国語・社会）を実施し、個に応じた学習を展開した。
5	J中学校	8.4	<ul style="list-style-type: none"> 全校でJ中学校ノート（自主学习ノート）に取り組み、家庭学習の習慣が身に付くように指導した。 「めあて」「まとめ」カードを活用した授業や、アクティブ・ラーニングの視点を意識した授業に取り組む等、授業改善に向けて校内研修の充実を図った。

※ 平成28年度の中学校の平均正答率と平成25年度の中学校区内の小学校の平均正答率とを、4つの教科・区分ごとの差を合計した調査結果を比較した数値。

成果を上げた小学校の取組事例

同一集団での経年比較による上昇傾向にある学校の例（A小学校）

（平成26年度CRT 4年生1月実施）

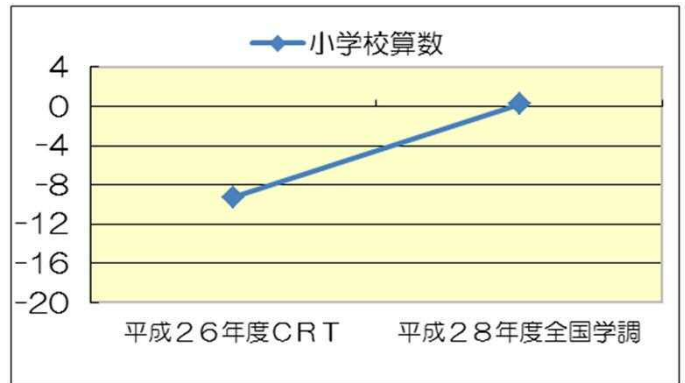
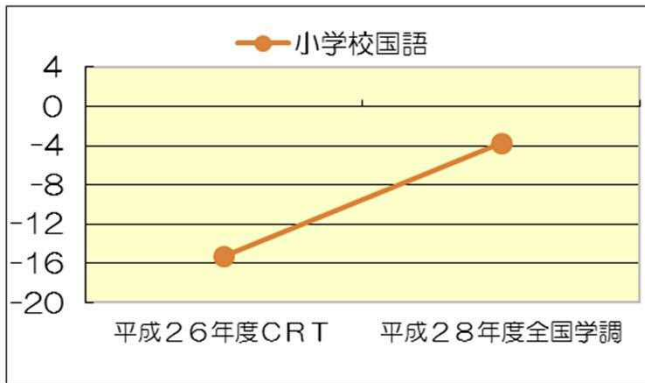
国語：全校平均を大きく
下回る（マイナス15P）

（平成28年度全国学調 6年生4月実施）

大きく上昇（11P上昇）

算数：全国平均を大きく
下回る（マイナス9P）

算数は全国平均を上回る（9P上昇）

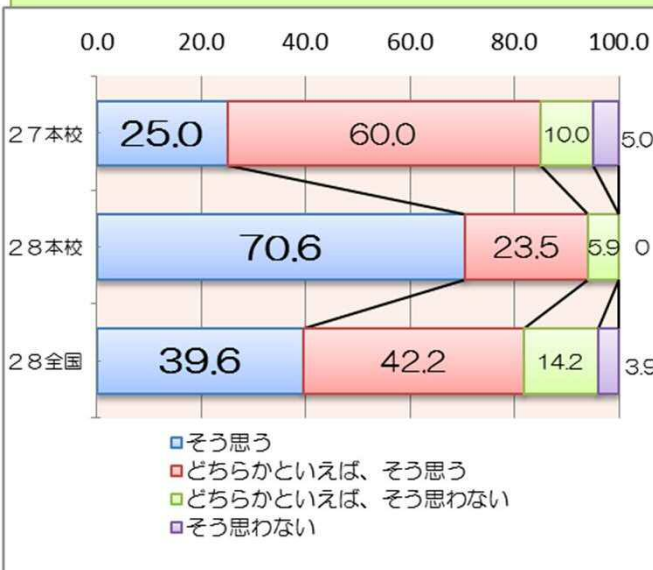


次のような学力向上に向けた取組を進めており、その成果が着実に表れていると考える。

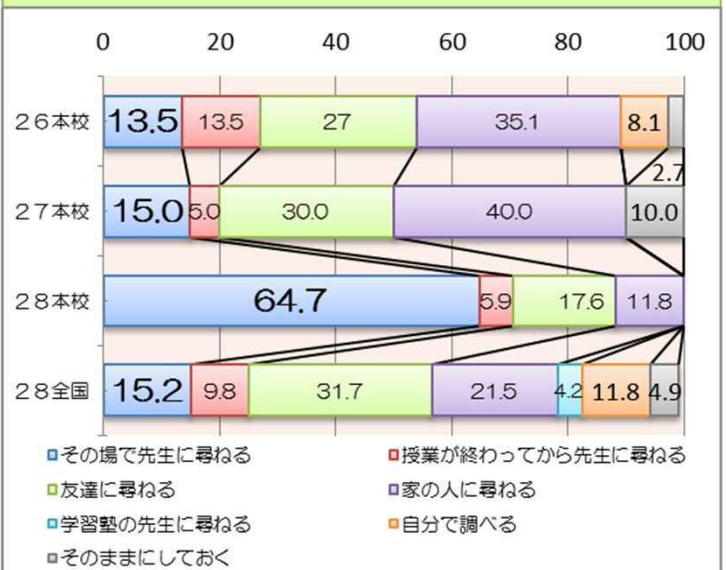
<具体的な取組>

- 日常的な授業公開から分かる授業づくりへの積極的な取組
- 放課後補充学習を全学年で実施
（1～2年生：チャレンジタイム 3～6年生：放課後教室・ひまわり学習塾）
- 自己表現の場の設定として学級会活動の充実

学級会などの時間に友達同士で話し合って学級のきまりなどを決める **大幅に上昇**



児童の「分かるようになりたい」といった意欲に答える授業づくり **全国を大きく超える**



成果を上げた中学校の取組事例

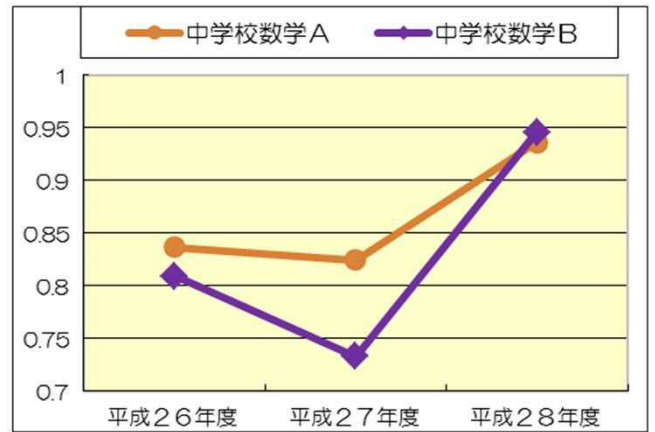
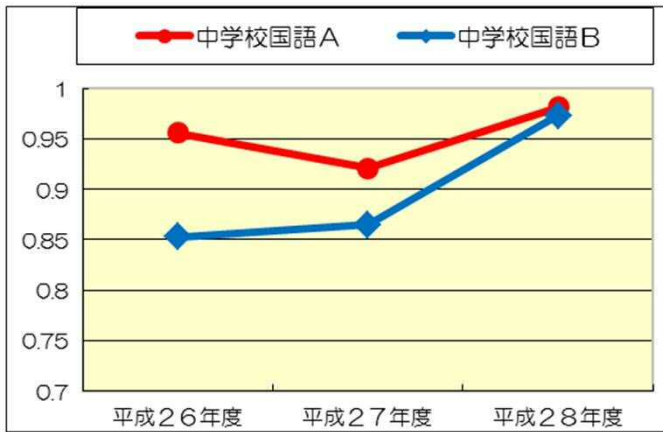
年度毎の各学年の経年比較による上昇傾向にある学校の例（K中学校）

（平成26年 4月実施）
 国語B：全国平均を大きく下回る
 （マイナス7.5P）

数学A・B：全国平均を大きく下回る
 （マイナス22.4P）

（平成28年 4月実施）
 国語Bは全国平均とほぼ同じ
 （マイナス1.4P 98.1%）

数学A・Bとも上昇し全国平均に迫る
 （合計で16Pの上昇）

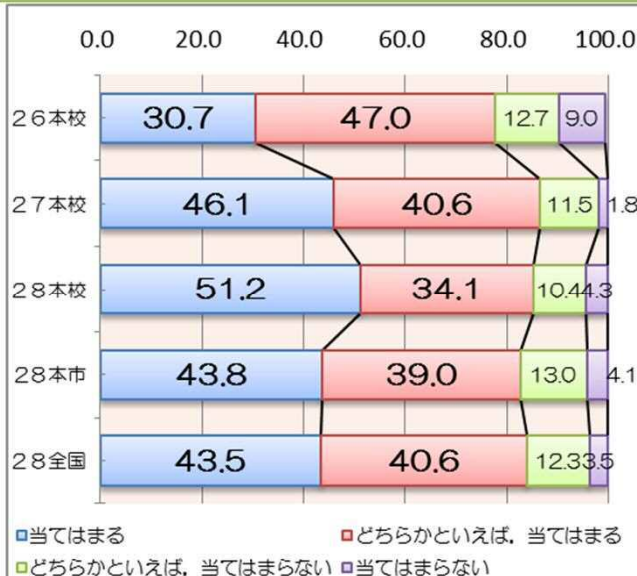


次のような学力向上に向けた授業改善が進んでおり、その成果が着実に表れていると考える。

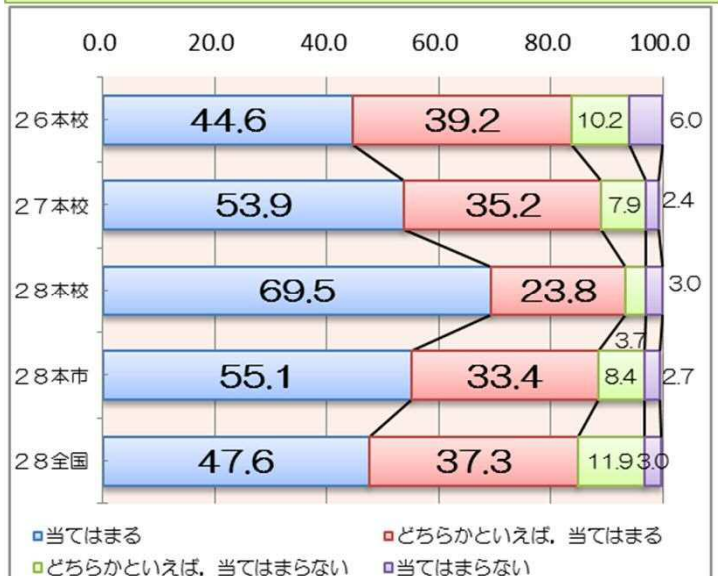
<具体的な取組>

- 「めあて」や「まとめ」を明確にした授業に取り組んだ。
- 授業での意見を述べる場、集団づくりを意識した教育活動を設定した。
- 放課後の補充学習などに積極的に取り組み、基礎学力の定着を図った。

授業では自分の考えを発表する機会が増加している。「当てはまる」 51.2%



授業のはじめに目標（めあて・ねらい）が示されていたと答えた生徒急増 69.5%



【学力向上アクションプランの成果と今後の方向性】



北九州市環境マスコットキャラクター ていたん&ブラックていたん
©ていたん&ブラックていたん, 北九州市

(1) 学力向上アクションプラン (概要)

北九州市学力・体力向上アクションプランの概要 (学力向上)

【目標】加速度的に変化していくこれからの社会において、子どもたちが社会的・職業的に自立して生きていくために必要な力を身に付けさせていくことが必要です。「北九州市子どもの未来をひらく教育プラン」の実現を目指して、以下の3つの柱を実施し、教員の指導力向上や家庭での生活習慣・家庭学習習慣の充実などを図り、子どもたち一人一人の学力向上につなげていきます。



【今後3年間で取り組む、学校・家庭・地域での具体的取組】

【柱1】 全校体制でのPDCAサイクルの確立

- PDCAサイクルに基づく学校の組織的な取組の推進
 - ・各学校における全校体制の確立
 - ・学力調査等の実施と児童生徒への指導の充実
 - ・調査結果等に基づく「スクールプラン」の策定・実施・検証・改善
- 〈教育委員会の支援〉
 - ・学力向上学校訪問の充実
 - ・学力向上講習会の充実
 - ・教育センター研修の充実
 - ・「北九州市学力向上だより」による情報提供
 - ・シンポジウム・懇談会等の開催
- 学力・体力向上策をつなぐ教育委員会の体制の確立

【柱2】 指導力向上のための日々の継続的な取組

- よい授業イメージの共有と授業を「行う・見る・語り合う・振り返る」活動の日々継続的な実践
 - ・全員研修会及び学校大好きオンリーワン校の公開授業の活用
 - ・動画を活用したWebによる研修の活用
 - ・『わかる授業』づくり5つのポイントのリーフレット及び点検シートの活用
 - ・「教師のしおり」の活用
 - ・総合的な学習の時間、特別活動、道徳教育の充実やアクティブ・ラーニング等を推進するための資料等の活用
 - ・授業力向上ステップアップ事業の実施
(学力向上推進教員の配置・派遣、評価問題の改善・充実、校内研修の改善・充実)
 - ・教育研究論文の部門等の見直し
 - ・授業づくり共同研究の見直し
- 教育活動の一層の充実のための取組の推進
 - ・学校図書館教育の充実
 - ・ICTの活用と英語教育の充実

【柱3】 学力定着に向けた協働的な取組

- 児童生徒一人一人へのきめ細かな教育の確立
 - ・学力定着のための学校独自の取組の組織的实施
 - ・学校との連携等による子どもひまわり学習塾の充実
 - ・指導方法工夫改善加配教員等の効果的活用のための工夫
- 学力向上につながる家庭・地域との連携
 - ・家庭学習の指導の充実
 - ・乳幼児期からの望ましい生活習慣づくりなど学びの基盤づくりの取組
- 確かな学力を育む校種間の連携
 - ・小中連携の充実
 - ・保幼小連携の充実

(2) 授業力向上

<「わかる授業」づくり5つのポイント>



- 1 「学び合いの基盤」
- 2 板書には、必ず「めあて」、「まとめ」と「振り返り」
- 3 子どもの思考を深める「発問」の工夫
- 4 1単位時間の中に「話し合う活動」と「書く活動」
- 5 「まとめ」と「振り返り」終わりの5分の確保



- ◆ 学級やグループで話し合う活動を授業などで行いましたか
 - <小学校> よく行った 本市【29.8%】 全国【53.6%】
 - <中学校> よく行った 本市【9.4%】 全国【39.3%】
- ◆ 様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか
 - <小学校> よく行った 本市【19.1%】 全国【33.5%】
 - <中学校> よく行った 本市【14.1%】 全国【26.2%】
- ◆ 授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れましたか
 - <小学校> よく行った 本市【45.8%】 全国【50.1%】
 - <中学校> よく行った 本市【39.1%】 全国【40.0%】

「わかる授業」を目指して、日々、授業改善に取り組みましょう！



<学力向上推進教員>

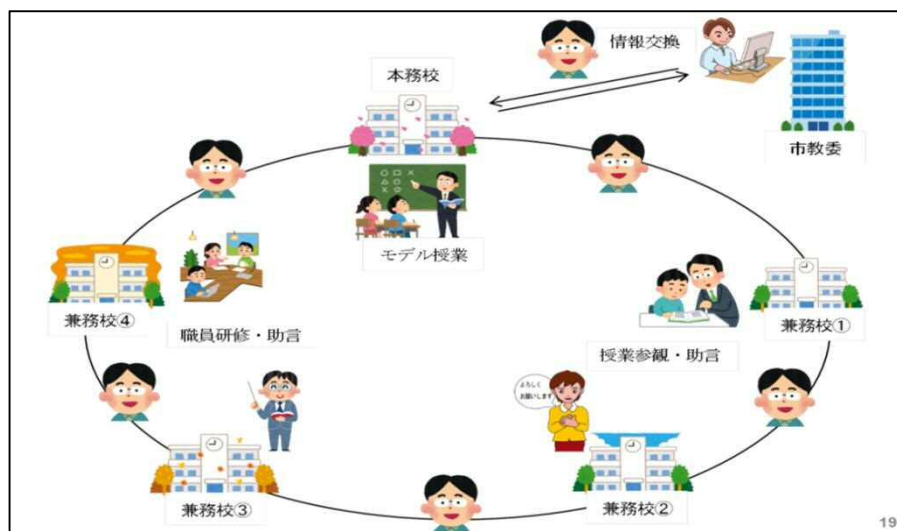
1. 学力向上推進教員とは

小・中学校に勤務している主幹教諭・指導教諭・教諭であり、教科指導に関する専門的な知識豊かな経験を有し、優れた教育活動を行っている教員である。学力向上推進教は、北九州市教育委員会が認定した教員である。

学力向上推進教員は、授業力の高い教員を育成するために「授業に直接入り込み、授業を参観したり、自ら授業をしたり、一緒に授業をつくったりする。」といった活動を複数校の学校で行う。

2. 対象校 小学校 90校
中学校 20校

- ① 学力向上推進リーダー（小学校7名・中学校2名）
- ② 学力向上推進教員（小学校18人・中学校4人）
※1人5校を担当



19

(3) 家庭・地域との連携

★子育て・親育ちのための★
北九州市
子どもを育てる
10か条

多日から一歩、毎日ひとこと、明日が変わる。
 みんなで取り組もう
 「北九州市の子育てルール」。

親は明るく笑顔で「おはよう」
 朝の挨拶から始まる親子の会話。地域の絆。大切ですね。

家族にも「ありがとう」と「ごめんない」
 取っ手ほど、忘れがちな言葉。家族を大切に育てよう。

子育ては誉める・叱る・見守る・抱きしめる
 どれかひとつが欠けても、うまくいきません。

聞く時は子どもの目を見て心を聴いて
 心の中の「本当の声」に気付いていきます。

食事が楽しい姿を見せよう
 いっしょがうれし、愛情をおし。

大切にしたい物より体験
 本気で体験する体験。子どもの心から。

まず親がまじめと実行 社会のルール
 親の姿を見せ、子どもは耳と目と心から。

声をかけて地域の宝 子どもたち
 声をかけ、支えたり励めたり、わが子と同じ気持ちで。

贈えよう 平和といのちと助け合い
 世界の平和。地球のいのちを、いっしょに考えよう。

子どもと夢を語り合おう
 夢を持つ実親。そう、がんばる成長の原動力です。

私たちは、毎日ひとつだけでも実行することを約束します。

実行の署名
 北九州市教育委員会

★自分を育てるために★
北九州市
子どもの誓い10か条

ぼくの／わたしの誓い

「誓い」とは、じぶんの心が約束することです。
 多日から一歩、毎日ひとつでもいいから実行しよう。
 プロセスが楽しいじぶんで育ててみてください。

朝は笑顔で「おはよう」から始めます
 家族にも言います「ありがとう」と「ごめんない」
 なぜ叱られたのかよく考えます
 なんでも正直に話します
 お話しながら楽しく食事作って「ありがとう」
 あきらめずにチャレンジします
 よいこと わるいことよく考えて行動します
 友だちやお年寄りまわりの人を大切にします
 みんなのまちや地球のため今できることをがんばります
 ぼくの／わたしの夢は「
 ）」です
 (「)の中にじぶんの夢を書いてください)

ぼくの／わたしの
 プロセスが楽しい

以上のこととを、じぶん自身に誓います。
 子どもの誓いを助け、愛情をもって見守ります。
 子どもの署名
 家族の署名

＜「家庭学習」の5つのポイント＞

- ①学校全体で共通理解を図り、ねらいを明確にした宿題を必ず課す。
 - ・宿題の質や量、指導や点検方法等についての共通理解
 - ・家庭学習の時間の目安は、小学校は学年×10分程度、中学校は毎日1時間以上で自分の学習計画に応じた時間を設定
- ②調べたり、文章を書いたり宿題を課す機会を多くする。
 - ・学習とのつながりを意識した内容を課題として設定
- ③家庭学習の方法について具体例を挙げながら教える。
 - ・家庭学習の意義、計画の立て方、教科等毎の取組方、テスト前の勉強方法等について指導
- ④家庭学習は必ず点検・評価する。
 - ・家庭学習チャレンジハンドブックの「家庭学習約束宣言シート」や「わたしの読書記録」等も活用した点検
 - ・子どもの頑張りの評価、優れたノートなどの良い取組の普及・顕彰
- ⑤家庭との連携を図る。
 - ・保護者会や懇談会等の機会での、家庭学習の意義等の発信や、子どもの家庭学習の取組状況・保護者の関わり方等について保護者との意見交換

(4) 子どもひまわり学習塾



北九州市教育委員会では、市立小中学校で放課後等の時間帯に、子どもたちの自主学習支援に携わってくださる学習指導員を募集しています。

- 活動内容／小学校3～6年生：国語・算数
中学校3年生：英語・数学
児童生徒の自主学習の支援（教材準備、質問対応等）
- 活動時間／原則週2回，1回2時間程度（概ね15:30～17:30）
※曜日は学校により異なります。
- 活動期間／小学校 平成28年6月～平成29年3月まで
中学校 平成28年7月～平成29年3月まで
- 報償費 /小学校1時間当たり 1,100円
中学校1時間当たり 1,300円
- 応募条件等／資格・免許・年齢は問いません。（教員免許不要）
北九州市教育委員会において登録を行います。

(5) 学力向上アクションプランの成果と今後の方向性

【柱1 全校体制でのPDCAサイクルの確立】

各学校の課題解決のため、学校訪問等を通して指導・助言や支援を行うことで、学力向上の取組が着実に進んだ。

全国学力・学習状況調査とともに、本市独自の北九州市学力状況調査に取組み、児童生徒の学力と学習状況を経年で把握・分析することで、一人一人に応じたきめ細かな指導を行うといったPDCAサイクルの確立が進んだ。

○ PDCAサイクルの確立

- ・ 児童生徒の学力や学習状況の情報をより詳細に把握するために、本市独自の北九州市学力状況調査については、学年を広げたり、教科を増やしたりする等について検討する。
- ・ スクールプランと学校評価、管理職及び教員の自己評価の相互の関連付けを進める。

○ マネジメント力の向上のための機会の充実

- ・ 管理職やミドルリーダー等のマネジメント力の育成について、取組の充実を図る。

【柱2 指導力向上のための日々の継続的な取組】

授業力向上ステップアップ校へ配置された学力向上推進教員による「『わかる授業づくり』5つのポイント」を踏まえた助言・支援や、思考力問題を一層取り入れるための単元末テストや定期考査の改善により、授業改善が進んだ。

また、新規採用教員に「教師のしおり」を配付する等により、資質・能力の向上を図った。

○ 指導力向上の仕組みづくりへの支援

- ・ アクティブ・ラーニング型の授業への移行を進めるための推進校を指定する。
- ・ 学力向上推進教員の増員について検討する。
- ・ 日々の授業改善に結び付くような研修的な内容となるよう校内研究の改善を進める。
- ・ 単元末テストや定期考査については、内容の改善と一層の充実を図る。

【柱3 学力定着に向けた協働的な取組】

子どもひまわり学習塾により、家庭学習の習慣は改善が進んだが、学力の定着は依然として課題が見られる。また、携帯電話やスマートフォンの使用時間、メディアとの接触時間も依然として課題となっている。

○ 学力定着に関係する学校の環境整備

- ・ 補充学習の充実が図られるように、学習教材の提供・補充学習における学校体制づくりのための支援等を行う。
- ・ 子どもひまわり学習塾の実施校の拡充を検討する。

○ 望ましい生活習慣づくりなど学びの基盤づくりの取組

- ・ 「早寝・早起き・朝ごはん運動」、「ケータイ・スマホ夜10時電源OFF」、「読書で広がる子どもの未来づくり事業」、「はじめての絵本事業」の取組を一層進める。
- ・ 学力向上につながる家庭学習等については、保護者が学ぶ機会を増やすために、教育委員会による出前講演「学力アップは家庭から」等、学力向上や家庭学習（生活習慣の改善）に特化した懇談会・座談会を開催しPTAとの連携を進める。